



武士道に導かれて日本へ

僕が日本へ来て今年で50年、黒姫に暮らすようになってから32年になります。

初めて日本にやって来たのは、22歳の時です。14歳からやっていた柔道がきっかけで、どうしても講道館で乱取りをしたかったのと、幻の格闘技、空手をやりたかったからです。私は英国では最初の空手有段者です。

さらに、知人がくれた新渡戸稲造さんの英語で書かれた「武士道」を読んだことで、僕の日本へのあこがれが強くなりました。

僕が初めて会った日本人は講道館から英国に送られた柔道の小泉軍治先生で、素晴らしい方でした。私が生まれた年は第二次世界大戦がはじまった年（1939年）なんです。戦争が終わった頃、日本人はいろいろと悪く言われました。それまでプロパガンダとか映画に出た日本人は首がなくて、頭丸坊主で怖いイメージでしたが、先生は小柄で口ひげがあって、礼儀正しい、英語もできる紳士

でした。僕は本当に尊敬していました。全く想像した日本人とちがっていました。

柔道を教える時にはまずおじぎと受け身ばかり。「本当にこの先生は強いのかな」なんて思っていたら、元コマンドというがっちりした生徒が先生と乱取りをすると、生徒はおもちゃみたいに飛んでいきました。

僕のおじいさんが言ってました。見た目に強そうなやつは本当は強くないんだって。

美しい自然を残した日本人を僕は愛した

僕は越冬隊員として北極に行きましたが、3回目の越冬の後、東京に初めてやってきました。その時、東京の暑さに参っていた僕をみて、柔道の先生が「山へ連れていけ」と他の生徒にいつくられたんです。信州に連れて行ってきて、びっくりしました。エデンの園かと思いました。湧水が出て小川が流れている。ブナの原生林があります。花が咲いて、鳥が歌っているし、水が笑っている。若葉から通る木漏れ日は大聖堂のステンドグラスよりも美しい。僕は鳥肌が立って、涙があふれていました。僕の国にもあったはずの自然、こんな美しい自然を残した日本を愛してしまいました。日本人の心のふるさと森です。森がなければきれいな水もない、田んぼもない。

でも、次第に日本の山には産業廃棄物が捨てられるようになって、小川はコンクリートになり、ゴルフ場が広がって、どんどん森がだめになっていました。

僕は黒姫にある幽霊森と言われる放置された森を買いました。動物も鳥もいませんでした。猟友会の松木さんを誘って一緒に森の復活をやらうと言いました。それがアフアの森です。アフアというのはケルト語で「風が通る」という意味で

す。森は10パーセントは光が入らないとだめなんです。それに水。われわれは480メートルの水路を作りました。今、アフアの森にはさまざまな動物や虫がいます。美しい花が咲きます。



人は森で蘇る

10年前に財団になった時に理事になった人が養護施設の理事もやっていて、障害のある子や虐待を受けた子どもなどが森にやって来ました。養護施設にいる9割の子供が親がいるのに預けられているんです。

僕は最初の頃、日本は子供の天国だと日記に書いていたのに、何かがおかしくなっていました。社会が迷子になっているんじゃないですか？

子どもたちを森に呼びたいと言っても、だれが責任をとるんですか、という話になる。弱いものを守るのが武士道じゃないですか。僕は1995年に日本国籍をとりました。自分が責任をとるといったら、地元のばあちゃんとか、いろんな人が手伝ってくれました。

アフアの森で子どもたちを遊ばせると、本当に生き生きとしてくるんです。震災で被災した人

たちも招きました。希望を見出したと言ってくれました。

東松島の若い役人が僕に握手して、学校が流されて移動しなくちゃいけないけれど、今暗い森になっているところを手入れして、学校を作りますと言ってくれました。

僕は故郷のウェールズの森の復興にも携わっています。石炭採掘のためにぼた山になって緑が全くなくなってしまった所に今、森が戻っています。川ではしゃげが泳いでいます。

日本と世界の学校のつながりを作り、自然と共に暮らそう、子どもたちに夢を与えようというのがぼくたちの夢です。

日本はこれまで何度もいろいろな苦難に会いましたが、そのたびに立ち直っています。今度の震災も汗と愛情があれば立ち直ることができると僕は信じています。

僕は日本に来てよかった。日本に感謝しています。ありがとう。

この記事は、平成24年5月11日(金) 京王プラザホテル 扇の間にて、日本セカンドライフ協会主催により開催されたC. W. ニコル氏の講演会をまとめたものです。

記 宮島佳代子

《C. W. ニコル プロフィール》

1940年英国南ウェールズ生まれ。

17歳でカナダに渡り、その後、カナダ水産調査局の技官として、北極地域の海洋哺乳類の調査研究に当たり、以後、カナダ政府職員として北極で計12回の調査探検を行う。

1962年、空手修行のため初来日。

80年、長野県黒姫に居を定め、執筆活動を続けながら、講演やメディアを通じて環境問題に積極的に発言。84年より、荒れ果てた里山を購入し、『アフアの森』と名づけて森の再生活動を实践。95年、日本国籍を取得。2002年「C. W. ニコル アフアの森財団」を設立し、理事長となる。

2005年英国政府より大英勲章(MBE)を授かる。

主な著書に『誇り高き日本人でいたい』『鯨捕りよ、語れ!』などがある。